

## 適正規模に関する学校の先生の見解

説明会に参加された保護者から、『適正規模の考え方について、先生たちは、メリット・デメリットなどをどのように感じていますか』というご質問がありましたので、複数の先生にお聞きし、下記のとおりまとめさせていただきました。

・小学校の発達段階を考えると、切磋琢磨して成長したり、コミュニケーション能力を育成したりするには、ある程度の人数が必要であるため、1 学年 2 学級以上が望ましいと思います。複数学級であると、教科担任制や習熟度別・少人数指導といった多様な学習が容易になるということもあると思います

ただし、人数が多すぎると、リーダーとして活躍したり、代表や選手に選ばれたりする機会が少なくなってしまうため、多くても 4 学級までが適正ではないかと思います。どうしても、人数が多すぎると教師の目が届きにいくなくなるという感覚もありますので、法律(※)にある 2～3 学級という標準は、現場としても妥当であると感じます。

複数学級のメリットとして、学年内で切磋琢磨できるということがあります。合唱や合奏等の音楽行事、運動会等の学校行事においても多様な活動を展開し、高い教育効果を期待できます。これはある程度の人数がいないと難しいですし、逆に多すぎると時間が短くなったり、発表等で体育館のステージを使う場合は、ステージに上がれなくなったりしてしまいます。

また、複数学級による合同学習は、特別教室やプールを使いますが、施設的な面でも、教師の目が届くという意味でも、2 学級の合同が望ましいかと思います。3 学級以上になると、器具のことや活動範囲のことなど、いろいろな制約が発生するので、難しい面もあります。

複数学級になると教師の数も増えるので、チームワークや連携プレーを取れるというメリットもあります。ですから、2 学級と 3 学級でどちらがベストかという、一長一短があると思います。

学校を分離することについては、新しい学校は、施設も新しく気持ちの良い生活が出来ると思いますが、教員も児童も初めての場所で、戸惑いがあったり、集中できなかったりという心配があります。既存の学校では、施設面で我慢をしなければならないこともあるかもしれませんが、適正規模になるとのびのびとスペースを活用できますし、通い慣れた学校の方が学習に集中できると思います。

それから、日本の学校は、教育機会の均等という考え方がありますので、基本的にはどこでも同じ教育を受けられることになっています。現実的には、地域やそこに集う児童と教員など、人と人の繋がりによって各校の特色が形成されていくと感じています。どちらの学校も、児童、教員だけでなく、地域のみんなで良い学校を作っていければ良いのかなと思います。

※学校教育法施行規則第 41 条 小学校の学級数は、12 学級以上 18 学級以下を標準とする。

ただし、地域の実態その他により特別な事情のあるときは、この限りでない。